

<新刊案内>

『責任ある投資 — 資金の流れで未来を変える』

水口 剛 著 (高崎経済大学経済学部教授)

岩波書店。2013年4月16日刊。3,200円(税込3,360円)

ISBN978-4-00-025896-8

目次

- 第一章 今、なぜ投資が問題なのか
- 第二章 責任ある投資は何を目指すか
- 第三章 責任ある投資の方法
- 第四章 責任ある投資と利益
- 第五章 責任ある投資と倫理
- 第六章 年金の運用を変えよう
- 第七章 情報開示を変えよう
- 第八章 責任ある投資の実現に向けて

責任ある投資

資金の流れで
未来を変える



水口 剛 責任ある投資

資金の流れで未来を変える

本来、将来を見越して備えるためのものだったはずの投資が極端な短期主義に陥っている。投資が個々のリスクとリターンだけで完結するという古いパラダイムであった。投資とそれによる経済活動は、社会や環境に大きな影響を与えるのである。今のままでは未来が危ない。すべての投資判断に社会や環境への配慮を組み込むことを市場が共有する規範とする「責任ある投資」の考え方をあらゆる角度から丁寧に解説し、その実現のための具体的な方法や制度改革の提案までを詳述する。

原発を支えた資金も私たちの
預金や年金の積立金であると
知っていますか？



定価(本体3200円+税)

自分のお金がどこでどう使われているのか関心をもとう。投資とは未来をつくる行為なのだから。

水口 剛



岩波書店

著者からのメッセージ

二〇一三年は、アベノミクスで幕を開けました。株価が上がり、世の中がにわかには活気づき始めました。景気の回復は喜ばしいことですが、「乗り遅れるな」とばかりに目先の利益追求を煽る論調も増えてきたようです。こんなときこそ、改めて金融と投資のあるべき姿を考えてみるべきではないでしょうか。

その際、頻発する竜巻や集中豪雨、豪雪などの異常気象と加熱する経済とを結び付ける視点が重要です。今のままの経済のあり方では、地球環境はもちません。そして経済の方向を左右するのは、投資のあり方です。投資判断の中に持続可能性への配慮を組み込み、市場に規律と自制をもたらす。それが「責任ある投資」という考え方です。

これは何も、抽象的、理念的な話ではありません。ヨーロッパでは極めて具体的な投資行動となっています。日本とも無縁ではありません。私たちの国民年金や厚生年金を預かる年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は、世界有数の機関投資家です。その資金の使われ方が問われているのです。本書は、責任ある投資の歴史や意義から海外の動向まで、この分野に関して現時点で最もまとまった情報を提供するものです。持続可能な社会を目指す多くの方々への参考になると信じています。